広報もりよし

編集発行・森吉町役場企画開発課　印刷所・米内沢中央印刷所

「米内沢橋」「小又大橋」完成記念号

待望の二橋ついに完成
二十八日に渡り初め式

当町の二大動脈をつなぐ基幹橋として、全町民が待ちに待った「米内沢橋」と「小又大橋」がついに完成しました。

「米内沢橋」

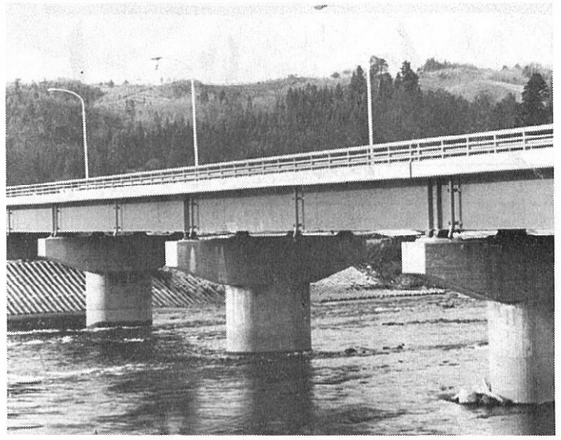
「米内沢橋」は昭和四十七年七月八日、水害で橋脚が沈下して以来、実に三年四か月ぶりの復旧となります。この間、二百米上流にかけられた仮橋が利用されてきましたが、川向地区の人々が町に出るのが不便になったほか、本丁、川向地区商店が大打撃を受けるなど、多くのマイナス要素を抱え、一日も早い復旧が全町民から切望されていました。

渡り初め式は、十一月二十八日正午から催され、町長、米内沢本郷部落代表、知事のテープ・カットのあと、三代同居夫婦（白坂部落の田崎義男さん一家）を先頭に渡り初めが行なわれ、直ちに開通となります。

「小又大橋」

一方、「小又大橋」は、県道小滝阿仁前田線の入口に所在する小又部落が、住宅密集のため、車の交差が困難を極め、また、通行が危険であること、震動が激しいこと等々により、計画された小又バイパス（通り町、新屋敷間）の阿仁川部分にかけられたものです。

渡り初め式は二十八日午前十一時から米内沢橋に先だって催され、町長、阿仁前田部落代表、小又部落代表、知事によるテープ・カットのあと、三代同居夫婦（惣内部落の庄司卯吉さん一家）によって渡り初めが行なわれます。



小又大橋

米内沢橋

米内沢橋・小又大橋の完成を祝して

森吉町長　近藤富治郎

このたび、全町民待望の米内沢橋、小又大橋の工事完成をみるにいたりましたことは、地域住民共々この上ない喜びとするところであります。

郷土の清流阿仁川、小又川の両河岸平地に住む私達にとって、橋梁の整備こそは正に日常生活の要をなすものであり、また、町振興の最重要施設でもあることは今更申すまでもないところであります。

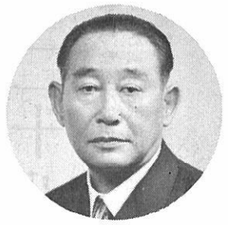
過ぐる四十七年七月の災害により架替せざるを得なくなりました米内沢橋は、昭和九年に永久橋化され、当時のゲルバート形式はその豪華さとモダンさにおいて郡内随一を誇っておりましたが、このたび完成した同橋もまた新時代の基幹道路にふさわしい規模と偉容に富み、現在の仮設橋利用と相俟ってその喜びはまたひとしおなものがあります。

また、小又バイパスとして今春完成いたしました小又大橋は、名峰森吉山を真正面に仰ぎ、観光開発道路にふさわしい規模とモダン性をもって奥地開発への意欲をそそっておりますことは、町振興のためまことに欣快にたえません。

あらためて、このような立派な施設をご建設下さいました国、県の関係ご当局及び布地協力者並に両橋の工事施工業者の方々に深甚の謝意を表しますとともに今後一層の町発展を祈念いたしまして心からお祝い申し上げます。

米内沢橋と小又大橋の完成を祝う

森吉町議会議長　桜井正七



待望の米内沢橋と小又大橋が、近代的な装いも新たに完成いたしました。

米内沢橋は、昭和九年阿仁川唯一の永久橋として架設、而来四十年に亘って阿仁部の交通の要として、地域の産業、文化の興隆に寄与して参りました。

しかし、昭和四十七年、県北を襲った大豪雨により遂に損傷、架替することとなったのであります。

小又大橋は、地域におけるバイパス路線として極めて重要であり、特に奥地開発に能動的な推進力となるものと信じます。森吉山のふくらみを遙か正面に配し県立自然公園の大玄関口に、まことにふさわしい景観でもあります。

山紫水明の地、住民の身も心も一体である阿仁川に、二つの橋が時を同じくして完成、喜びを分ち合うことになりました。複雑を極める社会状況の中で、特異な振興をはかろうとしている本町にとり、その意義はまことに深いものがあります。

そして、私たち住民の心の安らぎともなるでしょう。

今後、二つの新しい橋が森吉町のみでなく、全広域的な面での経済、文化等の振興に貢献し、地域住民の福祉増進に寄与することを期待し、念願いたします。

本事業の促進、工事進捗のため多大のご尽力とご協力を頂きました、国、県、関係機関、施工者及び関係の方々に、深く感謝を申上げます。

米内沢橋・小又大橋の竣功に当たって

秋田県知事　小畑勇二郎

森吉町の皆さま、このたび、米内沢橋と小又大橋の二橋が完成し、ここにめでたく竣功式が挙行されることになりましたことは、まことに喜びにたえないところであります。

かえりみますと、国道一〇五号線の米内沢橋は、昭和四十七年七月の大災害によって一部が損壊し、一時交通が途絶するなど、皆さまには大変なご不便をおかけしたわけでありますが、皆さまのご協力によりまして、昭和四十八年度には仮橋が完成し、続いて四十九年度からは、橋長一七四・五米、幅員六・五米、両側に歩道をつけた近代的な型式の新しい米内沢橋の建設に着手し、総事業費四億三千五百万円をもって、本日めでたく完成することができたものであります。

また、県道小滝阿仁前田停車場線の阿仁前田地区バイパスは、皆さまのご協力を得まして、昭和四十六年度に建設に着手し、総事業費二億五千百万円（内橋梁費一億四千四百万円）をもって、本日完成に至ったものでありますが、とくにこのバイパスの中にある小又大橋は、橋長一五〇米で幅員五・五米に歩道をもつ近代橋であります。

これらの完成によりまして、長年の皆さまのご不便、とくに冬期の交通難を解消し、日常生活における利便はもちろん、産業、経済の発展など、地域開発のうえで大きな役割を果たすものと確信する次第であります。

申すまでもなく本日、めでたく竣功式を迎えることができましたのは、用地および工事関係者の皆さま、ならびに地元の皆さまの絶大なるご協力の賜物でありまして、ここにあらためて厚くお礼を申しあげます。

おわりに、森吉町のご発展と、この新しい道、新しい橋の安全をお祈りいたしましてごあいさつといたします。

工事概要

（米内沢橋）

位置	森吉町米内沢地内，阿仁川
延長	174.50m
幅員	13.30 ～ 15.90m
（内訳）	車道 6.50 m
	歩道 2.50 m×2
型式	
上部工	二経間連続桁 単純ワーレントラス
下部工	橋台　2基，橋脚　2基
事業費	435,000,000 円
施工	
上部工	高田機工，住友重機 大昭塗装
下部工	秋田土建
事業主体	秋田県

（小又大橋）

位置	森吉町阿仁前田地内，阿仁川
延長	150.00m
幅員	8.25m
（内訳）	車道 5.50 m
	歩道 1.50 m
型式	
上部工	二経間，三経間連続桁
下部工	橋台　2基，橋脚　4基
事業費	144,000,000円
施工	
上部工	連北機械，大昭塗装
下部工	藤島組
事業主体	秋田県

町民の喜びの声から

両橋の完成を一日千秋の思いで待たれていた方々の中から、両橋近くに住む二人の方に、喜びの感想を語っていただきました。

北林直蔵さんは、米内沢橋のたもとで食堂を経営しており、商売上では最も影響を受けた方の一人です。

石川栄太郎さんは、狭あいな道路で困っている小又部落の自治会長さんとして小又バイパスの実現にご尽力された方です。

「安堵しました」

北林直蔵さん

米内沢橋がダウンしてから三年たちましたが、本当に長い三年でした。客足が急に落ち、一時はどうなるかと不安な気持でした。

完成して本当に安どしました。家内中喜びでいっぱいです。

しかも、橋は力強い鉄骨づくりで幅も広く、きっと町発展の原動力になってくれるものと思っています。

「奥地開発に貢献」

石川栄太郎さん

小又地区は狭あいで、大型トラックが通るたびに地震がおきるばかりか、交差もできず、また、通行者には危険この上ない状態でしたが、これで解消されることになります。

バイパスの完成は、奥地集落に安心感を与えると同時に、観光開発と産業面に威力を発揮するものと思います。

心からお祝い申し上げます。

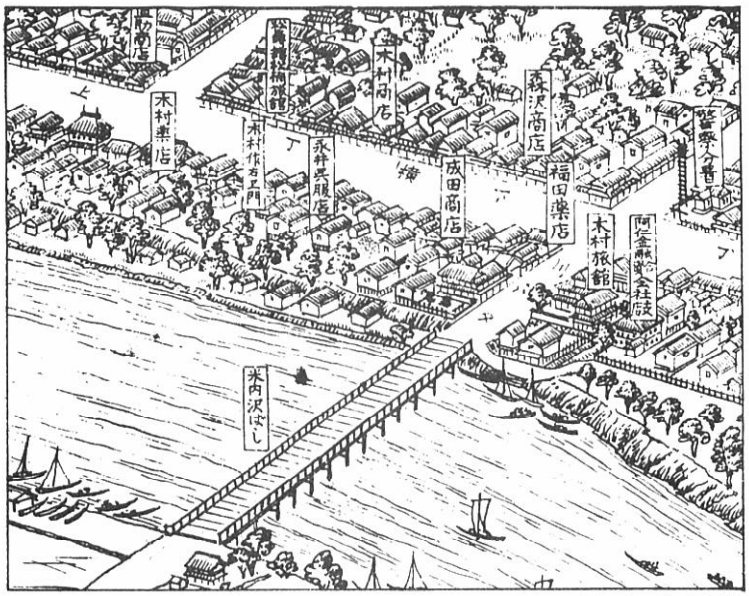
目で見る 米内沢橋の歴史

最初の「米内沢橋」がいつできたかについては、目下、町史編さん室において調査中で、まだわかっていません。

ただ、江戸時代末期（一八〇二年）に当町を訪れた有名な紀行文学家の菅江真澄は「鶏の鳴く声で起きだし、米内沢をたって朝川をわたり、……」と遊覧記に書いていますので、当時はまだかかっていなかったものと思われます。

二、三の方にお尋ねしたところ、そろって、明治後期だろう、との返事でした。

写真①をご参照下さい。これは大正八年にできたもので、米内沢橋としては二番目のものにあたります。最初のものが老朽化したため架替えられたもので、施工にあたったのは現在の秋田土建ＫＫでした。



（大正６年以前）

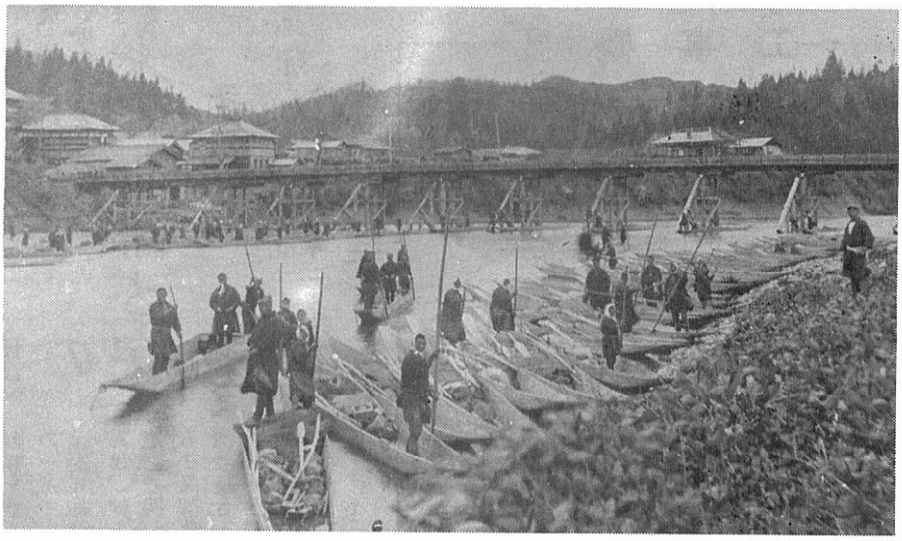
この橋は昭和九年までもちました。この年に前の永久橋（写真②）に架替えられたのです。この年はまた阿仁合線鷹巣・米内沢間が開通した年でもあります。

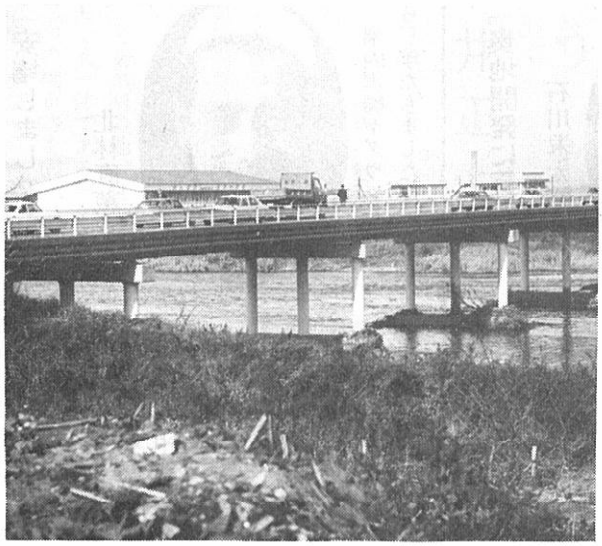
昭和四十七年七月、月のはじめから断続的に降っていた梅雨は七日に至って大豪雨に変り、八日未明ついに全町に大被害をもたらしました。床上浸水、農地埋没等々みな桁はずれの規模でしたが、一番驚かされたのが、この予想もしなかった米内沢橋の沈下でした。

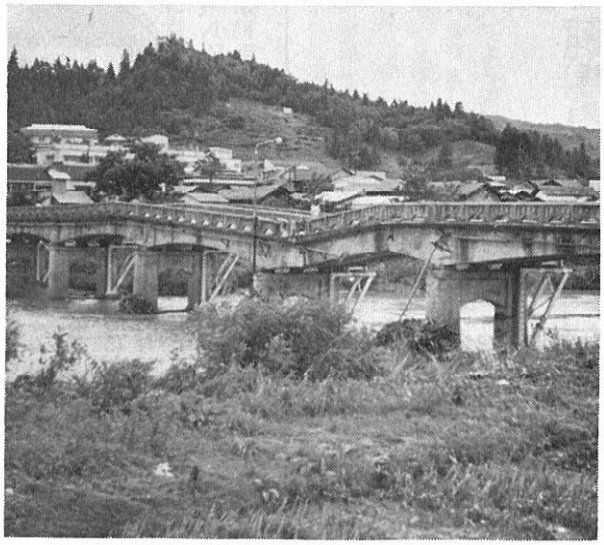
このため、国道一〇五号線は一時ストップ、その後応急手当をし、重量制限しながら、翌年八月十二日までどうにか使用しましたがまもなく解体されました。

その後は二百米上流にかけられた仮橋（写真③）が利用され今日にいたっています。しかし、バスが迂回になる、川向地区の人々の買物が不便、一部商店が客足が落ちて大被害など多くの問題をかゝえておりました。

このたびの新橋の完成によって、それらもすべて解決されるものと思われます。


① 大正８年――第二番目の米内沢橋（長さ66間）


③ 昭和48年 ― 200米上流に仮橋できる


② 昭和47年―米内沢橋ついにダウン